

— 島根の土木・建築工事の今昔 —

H22.7.7 (社)全日本建設技術協会主催

「平成 22 年度 建設技術講習会」での挨拶から

1. 本日、建設技術講習会が、ここ島根・松江の地で、盛大に開催されますことを心からお喜び申し上げます。全国よりお越しの皆様を心から歓迎申し上げます。

2. 島根は、豊かな自然、古代から続く古き良き文化、歴史があり、非常に住みやすいところではありますが、少子高齢化の最も進んだ県でもあります。戦後の経済発展に遅れたことが、その大きな理由であります。

島根は東西に細長く、山あり谷あり川ありの地形で、災害が多かったり、交通が不便であったことが産業の発展に不利だったためだと思います。

3. そこで、私どもは産業振興のため、高速道路のミッシング・リンクの早期解消など道路の整備や治山・治水など社会インフラの整備を進めるよう努力しております。

島根はまだまだ社会インフラが不足している県で、国などにもその整備促進を強く要請しているところでもあります。

4. 明後日の現場研修では、松江の大橋川にかかる第 5 大橋建設事業や斐伊川・神戸川治水事業で整備している尾原ダム、斐伊川放水路を見ていただくことになっているそうですが、そうした大きな工事現場が県内各所にまだまだ沢山あるのであります。

5. 他方で、農業が産業の中心だった古代世界では、この出雲の地は豊かなところであり、当時の技術の粋を集めた巨大な建造物がありました。現在の出雲大社の本殿の高さは約 24 メートル（8 丈）ですが、社伝によれば最も古くは 97 メートル（32 丈）もあったと伝えられています。

そのことが事実であったことを想像させるかのように、平成 12 年には、3本の巨木を束ねた宇豆柱（うずばしら）と呼ばれる柱が発見され、話題となりました。平安時代に「雲太（出雲大社）、和二（東大寺大仏殿）、京三（京太極殿）」と言われていたように、当時は出雲大社は日本一の建造物でした。

さらにその前の時代には、大きな古墳群が各地に沢山造られておりました。古代世界では出雲はいわば大規模工事の先進地域であったのであります。

6. 近世になりますと、開府から400年経つ松江城があります。また、江戸時代には出雲平野に用水を引いた高瀬川の開削や水害防止のため宍道湖の水を日本海に流した佐陀川の開削など、大規模な河川工事が行われてきました。
7. 日本の歴史から言いますと、平成24年（2012年）には日本最古の公式歴史書「古事記」が編纂されてから1300年を迎えます。この「古事記」の神話部分の3分の1はスサノオノミコトのオロチ退治やオオクニヌシノミコトの国譲りなどの「出雲神話」から成っており、島根と非常に関係深いものがあります。
そこで県では、『神々の国しまね 古事記1300年』というキャンペーン・タイトルの下に観光PRを行う予定であります。
8. また、翌25年（2013年）には出雲大社で60年に一度の「大遷宮」が執り行われます。皆様には、今回、あるいは次の機会にこうした島根の古き良き世界にも足を運んでいただければ幸いです。
9. 最後に、今回の島根滞在が有意義で思い出深いものとなりますよう祈念いたしまして、ご挨拶いたします。